



□

2bll □

í

1

■

■

■

í

3

■

í

5

■

í

13

#### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

三重大学建学以来の伝統と実績に基づき、本学が基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す ～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、以下のことを特色、個性として掲げ、その実践に努める。

本学は地域社会、国際社会の繁栄と豊かさを実現するため、「幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、社会に積極的に貢献できる人財」を育成することを教育研究の目標とする。

第一期中期目標・中期計画中の産学官民連携事業における顕著な成果を基盤として、本学の教育・研究活動による社会貢献をさらに発展させるため「地域のイノベーションを推進できる人財の育成」を新たな具体的目標に掲げる。

上記の目標を達成するためには、地域との連携で得られた成果を広く世界に向けて情報発信することが求められる。これらの行動の集積により国際社会に高く評価、注目される教育・研究の拠点が形成され、大学の独自性が表出され、特色が鮮明となる。

#### 三重大学の特徴および特色

- 1 5学部6研究科と附属病院、附属学校を擁する総合大学である。「基本的な目標」にある「地域に根ざす」をモットーに、地域貢献に力を注いでいる。自治体や企業との連携に大きな成果を挙げており、中小企業との共同研究件数では全国のトップクラスに属するなど、地域社会とともに歩む姿勢を貫いている。
- 2 日本でも数少ない海に面した全学部が一つのキャンパスに設置された大学として、練習船を有し、山と海、そして空の青さの三翠の、自然豊かな地域に立地し、自然に恵まれたキャンパスで、優れた研究成果を発信する地域における「知」の拠点としてのハブ機能を担っており、地域社会から大きな期待が寄せられている。
- 3 「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と、それらを総合した「生きる力」の4つの力の獲得を基本的教育目標に据えている。また、教育目標を達成するための教育方法として、PBL教育(Problem/Project Based Learning)を採用するなど、学生の問題解決的な能力の形成、自主的な学習態度の育成に努めている。
- 4 研究能力が世界に通用すると評価される研究者が多数存在し、地域に貢献する研究テーマに積極的に関わろうとする教員も多く、それらの研究成果は、教育現場、地域医療、自治体や企業との連携や各種技術のイノベーションに活用され、地域発のイノベーションにつながっている。
- 5 防災・減災に関する取組として、「自然災害対策室」(平成22～24年度)を拡充した「地域圏防災・減災研究センター」を設置するとともに、県と共同で「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」(平成26年度～)を大学内に設置し、三重地域圏の防災・減災に関する教育活動等に貢献している。
- 6 環境先進大学として様々な環境活動に取り組んでおり、スマートキャンパス事業(平成23年度～)では、省エネ機器の導入、学生教職員の省エネ活動により二酸化炭素排出量を平成22年度比26.4%削減した。また、四日市公害の解決に本学が大きく寄与した経験を活かし、学生と教職員が一体となってISO14001の認証を維持して教育、研究、社会貢献に活用するなど、地域とともに積極的に環境活動を実施している。
- 7 中国・タイ・インドネシアの協定大学と輪番で開催している「3大学ジョイントセミ

ナー」の充実をはじめ、アジアパシフィック地域を中心とした技術支援や三重大学内で毎年開催している国際シンポジウム、国際ワークショップなどの国際交流、留学生の受入、国際インターンシップ制度の整備、ダブル・ディグリープログラムの実施などの実績を有する。

### [個性の伸長に向けた取組]

- 1 本学の教育目標である「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを統合した「生きる力」を養成するため、全学的な教養教育体制の再構築を行い、平成 27 年度入学生より新しい教養教育カリキュラムを開始し、年間を通じてコミュニケーション力を始めとして、4つの力の育成がより効果的に行える「アクティブ・ラーニング領域」を設けて能動的な授業を充実させるなど、本学の個性を伸長させている。  
(関連する中期計画) 計画 1-1-2-1
- 2 環境に関する取組では、本学は三重大学ブランドの持続可能な開発のための教育 (ESD) プログラムを構築して、三重 (地域) に根ざし、世界に誇れる国際環境人材を養成するとともに、地域協働の環境教育活動にも取り組むなど、世界に誇れる環境先進大学を目指す本学の個性を伸長させている。  
(関連する中期計画) 計画 1-1-2-2、計画 3-1-1-1
- 3 産学官連携推進の取組として、地域の自治体、企業、団体等と共に積極的にプロジェクトを展開している。地域企業と行う共同研究を三重県と有機的に連動させるプロジェクトや、リスクマネジメントに関する取組が経済産業省や文部科学省の事業に採択されるなど、これまでの活動が評価されている。これらの活動は地域圏の中規模大学における産学官連携のモデル校として本学の個性を伸長させている。  
(関連する中期計画) 計画 2-2-1-3
- 4 県と協働で「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置し、三重地域圏の産学官民連携による防災・減災活動の推進体制を強化している。特に人材の育成と育成した人材による取組は、全国的にも優れた取組として受賞の対象になるなど、全国に先駆けた先行モデルとして本学の個性が伸長したといえる。  
(関連する中期計画) 計画 3-1-1-4

### [東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

- 1 東日本大震災後の災害ボランティアを支援するため、学生の災害ボランティア活動に対し、修学上の配慮をする制度を整備し、延べ 43 名の学生がこの制度を利用してボランティア活動に参加した。
- 2 東日本大震災の際に附属病院救命救急センターの医療チームを発災当日に派遣し、水戸、福島、仙台で医療活動を行った。その後も、岩手県陸前高田における災害支援活動を県内病院の持ち回りで継続して行った。

## 評価結果

### 《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、三重大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
<b>(Ⅰ) 教育に関する目標</b>	おおむね良好				
① 教育の内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			4	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			1	
③ 学生への支援に関する目標	良好		1		
<b>(Ⅱ) 研究に関する目標</b>	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
<b>(Ⅲ) その他の目標</b>	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			1	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			3	
③ 学術情報基盤に関する目標	おおむね良好			1	

### ＜主な特記すべき点＞

#### 個性の伸長に向けた取組

- 教育目標である「4つの力」を理解し、学びの基本的スキルを修得させることを目的として、従来から実施していた初年次教育科目「4つのカスタートアップセミナー」を平成27年度入学生から全学必修として、「アクティブ・ラーニング領域」を設け、前期に「聞く」、「話す」に重点を置いた「スタートアップセミナー」を、後期に「読む」、「書く」に重点を置いた「教養ワークショップ」を配置するなど、初年次教育を拡充している。  
(中期計画 1-1-2-1)
  
- 平成23年度に、地域活性化に向けた政策提案とその実現のために地域戦略センター(RASC)を設置し、地域密着型の産学官連携活動を推進している。また、三重県内の4か所に産学官連携活動の学外拠点を設置し、市民や企業関係者を対象としたセミナーや技術相談等を行っている。これらの取組により、三重県内中小企業との共同研究が活発に実施されており、文部科学省の調査「平成26年度大学等における産学連携等実施状況について」によると、同一県内中小企業との共同研究数は全国2位となっている。また、第2期中期目標期間(平成22年度から平成27年度)の平均実施件数は年間62.5件となっている。(中期計画 2-2-1-3)
  
- 防災・減災に向けて取り組むために設置した災害対策プロジェクト室を、平成22年度に自然災害対策室、平成25年度には地域圏防災・減災研究センターへ改編し、地域の防災・減災に関連する人材育成や研究等の事業を推進している。また、平成22年度から三重県との連携により美し国おこし・三重さきもり塾を実施し、三重県地域の防災を担う人材育成に取り組んでいる。さらに、平成26年度には、三重県と一体となった防災組織として三重県・三重大学みえ防災・減災センターを設置し、自治体等と協働して地域防災・減災事業を推進している。(中期計画 3-1-1-4)

### ＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 東日本大震災後の災害ボランティアを支援するため、学生の災害ボランティア活動に対し、修学上の配慮をする制度を整備し、延べ43名の学生がこの制度を利用してボランティア活動に参加した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

## 《本文》

### (I) 教育に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育の内容及び教育の成果等に関する目標

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育の内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

##### ○初年次教育の拡充

中期目標(小項目)「(学士課程・大学院課程カリキュラム) 幅広い教養と専門領域の学究を通して、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成するため、学士課程カリキュラムを拡充する。また、地域・国際社会に貢献できる研究者・高度専門職業人を育成するため、学際的・独創的・総合的視野に基づいた大学院課程カリキュラムを拡充する。」について、教育目標である「4つの力」を理解し、学びの基本的スキルを修得させることを目的として、従来から実施していた初年次教育科目「4つのカスタートアップセミナー」を平成27年度入学生から全学必修として、「アクティブ・ラーニング領域」を設け、前期に「聞く」、「話す」に重点を置いた「スタートアップセミナー」を、後期に「読む」、「書く」に重点を置いた「教養ワークショップ」を配置するなど、初年次教育を拡充している。

(中期計画 1-1-2-1)

○工学研究科における英語教育の充実

工学研究科において、外国人教員を中心とした少人数実践英語教育、国際会議発表演習をはじめとする国際教育科目群の新設等の取組により、学生の英語力、教育課程の国際通用性の向上に取り組んでおり、英語授業科目の履修者数は平成 21 年度の 120 名程度から、国際教育科目を新設した平成 24 年度の 370 名に増加している。また、博士前期課程学生の英語による発表件数は、平成 21 年度の 88 件から平成 27 年度の 570 件へ増加している。（現況分析結果）

（特色ある点）

○地域の特徴を生かした教育への取組

中期目標（小項目）「（学士課程・大学院課程カリキュラム）幅広い教養と専門領域の学習を通して、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成するため、学士課程カリキュラムを拡充する。また、地域・国際社会に貢献できる研究者・高度専門職業人を育成するため、学際的・独創的・総合的視野に基づいた大学院課程カリキュラムを拡充する。」について、平成 25 年度から、環境教育プログラムとして持続発展教育（ESD）プログラムを全学に展開し、平成 27 年度には地域との連携をより強化した科学的・地域環境人材育成事業へと発展させている。また、各部局においても、「地域文化研究総論」と文化学必修科目の実施（人文学部）、大学近隣の教育現場での実地活動（教育学部）、地域基盤型保健医療実習を含む地域医療教育の推進（医学部）等、地域の特徴を生かした教育に取り組んでいる。これらの取組の結果、学生の教育全般についての満足度は第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）で増加傾向にあり、72.3%から 82.3%の間で推移している。（中期計画 1-1-2-2）

○高大連携事業の推進

中期目標（小項目）「（学生の受入れ）地域・社会に貢献するという目的をもって真摯に学習する意欲や大学での学習の基礎となる学力をもつ学生を受け入れるため、入学者選抜方法を改善する。」について、高大連携事業として、高校生対象の講義や実習を大学で受講するサマーセミナー、東紀州地域にある高等学校を対象とした公開講座の東紀州講座、共通教育科目を高校生にも公開する高大連携授業、各学部で行う出前授業を実施し、またスーパーサイエンスハイスクール等の高等学校が実施している事業にも協力をしている。このうちサマーセミナーは平成 27 年度に 10 回実施し、参加した 316 名への満足度調査では約 96%が肯定的に回答している。（中期計画 1-1-4-3）



## (2) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## (3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

## &lt;特記すべき点&gt;

## (特色ある点)

## ○就職支援の推進

中期目標(小項目)「(学生支援) 学生の修学、就職、生活、健康維持を総合的に行うため、学生支援体制を拡充する。」について、平成23年度に文部科学省の産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に採択され、三重県・愛知県の企業へニーズ調査やシンポジウム等を実施している。また、キャリア・カウンセラーによる進路・就職相談、学内企業研究会の運営や求人情報収集等の取組により、就職率は第2期中期目標期間を通して96%を超えている。

(中期計画 1-3-1-1)

## ○ピアサポーター学生委員会の発足

中期目標(小項目)「(学生支援) 学生の修学、就職、生活、健康維持を総合的に行うため、学生支援体制を拡充する。」について、平成22年度に学生の生活や修学を支援するため、学生が主体的に活動を行う組織としてピアサポーター学生委員会を発足するとともに、平成23年度にはキャリア教育担当教員をピアサポートルームに配置している。また、ピアサポーター自身の「4つの力」を養成するため、所定の科目を履修した学生に対して独自に資格を認定しており、資格認定に係るキャリア教育科目を新設するなどの取組により、キャリア・ピアサポーター資格取得者数は、平成27年9月末時点で349名に達している。これらの取組の結果、ピアサポートメンバーが学生の悩みや相談に乗る「なんでも相談」の相談件数は、平成22年度の相談者数26名から平成26年度春終了時点で相談者数115名へ増加している。(中期計画 1-3-1-2)

(II) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体や民間企業等との共同研究及び受託研究の推進

中期目標(小項目)「(研究成果の教育への反映及び社会への還元) 研究成果を教育に反映し、また、広く社会に還元するため、研究成果の公表や産学官連携活動等を積極的に推進する。」について、三重県内の自治体や民間企業等と共同研究及び受託研究に取り組むとともに、民間企業、教職員及び学生を対象とした実践的な知的財産の保護・活用方法に係る教育活動を行う Mip 特許塾の開講や、知的財産に対する貢献者への優遇措置である三重大学知的財産表彰等の制度を設けて、研究成果の促進と還元に取り組んでいる。これらの取組の結果、第2期中期目標期間を通して、共同研究・受託研究の件数は415件から454件の間で推移している。(中期計画2-1-2-2)

○研究成果の発信

中期目標(小項目)「(研究成果の教育への反映及び社会への還元) 研究成果を教育に反映し、また、広く社会に還元するため、研究成果の公表や産学官連携活動等を積極的に推進する。」について、研究成果をわかりやすく周知するため、産学官民連携マガジン『結 Yui』等の広報誌を発行するとともに、先端研究シンポジウムを第2期中期目標期間に9回実施し、延べ約1,500名が参加している。また、一般市民を対象としたサイエンスカフェを第2期中期目標期間に13回実施し、参加者数は延べ約500名となっている。(中期計画2-1-2-3)

## (2) 研究実施体制等に関する目標

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○地域密着型の産学連携活動体制の整備

中期目標(小項目)「(戦略的研究推進体制) 研究全体の目標に基づき、基礎研究及び応用開発研究を戦略的に推進する体制を確立する。」について、平成23年度に、地域活性化に向けた政策提案とその実現のために地域戦略センター(RASC)を設置し、地域密着型の産学官連携活動を推進している。また、三重県内の4か所に産学官連携活動の学外拠点を設置し、市民や企業関係者を対象としたセミナーや技術相談等を行っている。これらの取組により、三重県内中小企業との共同研究が活発に実施されており、文部科学省の調査「平成26年度大学等における産学連携等実施状況について」によると、同一県内中小企業との共同研究数は全国2位となっている。また、第2期中期目標期間の平均実施件数は年間62.5件となっている。(中期計画2-2-1-3)

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

**【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○地域協働による環境教育活動の推進

中期目標(小項目)「(知の支援) 地域に根ざした知の支援活動を促進する。」について、公開講座や授業を一般公開する市民開放授業を実施するとともに、地域協働の環境教育活動に取り組んでおり、地球環境大賞文部科学大臣賞や、環境省と一般社団法人地球・人間環境フォーラムが優れた環境報告書等を表彰する環境コミュニケーション大賞等を受賞している。また、教員免許状更新講習について、教育学部を中心に全学協力体制で実施し、毎年度延べ 3,000 名の受講者を受け入れるとともに、受講者の事後評価により社会人のキャリアアップ教育の改善に努めている。(中期計画 3-1-1-1)

○自治体等との協働による地域防災・減災事業の推進

中期目標(小項目)「(知の支援) 地域に根ざした知の支援活動を促進する。」について、防災・減災に向けて取り組むために設置した災害対策プロジェクト室を、平成 22 年度に自然災害対策室、平成 25 年度には地域圏防災・減災研究センターへ改編し、地域の防災・減災に関連する人材育成や研究等の事業を推進している。また、平成 22 年度から三重県との連携により美し国おこし・三重さきもり塾を実施し、三重県地域の防災を担う人材育成に取り組んでいる。さらに、平成 26 年度には、三重県と一体となった防災組織として三重県・三重大学み

え防災・減災センターを設置し、自治体等と協働して地域防災・減災事業を推進している。（中期計画 3-1-1-4）

## （２）国際化に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由） 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### （特色ある点）

#### ○ICT を活用した海外教育機関との国際交流活動の実施

中期目標（小項目） 「（学内国際化） 国際交流イベントなどによって、国際感覚が自然に身につけやすい学内の国際化を進める。」について、教育学部、医学部看護学科及び医学部・医学系研究科において、ICT を活用して海外教育機関との英語による遠隔授業を実施している。また、海外の大学等との会議、国際協力機構（JICA）のアフガニスタン中核人材育成プロジェクトによる受入候補者面接選考、ダブル・ディグリープログラムや国費外国人留学生優先配置プログラムの入学希望者の面接選考、論文作成着手のための事前審査等にテレビ会議システムを活用し、国際交流活動を実施している。（中期計画 3-2-1-1）

#### ○海外大学との連携事業の推進

中期目標（小項目） 「（外国人受入れと学生、教職員の派遣） 留学生、外国人研究者の受入れ体制及び学生、教職員の海外派遣制度を整備し、充実を図る。」について、教育学部が天津師範大学（中国）、生物資源学研究科がスリウイジャヤ大学及びパジャジャラン大学（インドネシア）とダブル・ディグリープログラムを実施するとともに、平成 27 年度に学部での 1 年間の留学及び大学院修士課程への進学を行うコンセクティブ・ディグリー（接続学位制度）を天津師範大学と合意している。また、Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）に加えて、平成 23 年度にボゴール農科大学（インドネシア）がホスト大学に加わり、参加大学も、東南アジア諸国連合（ASEAN） 諸国に拡大している。（中期計画 3-2-2-2）

(3) 学術情報基盤に関する目標

**【評価結果】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学術情報基盤に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育の内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>(教育成果)</p> <p>教育全体の目標である「4つの力」の修学達成度等を評価するため、本学が提供する学士課程教育（共通教育・専門教育）の成果を多面的に検証する。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	学生が身に付ける学力、資質・能力や育成しようとする人材像等を明らかにするため、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を策定する。さらに、授業だけでなく課外活動も含めて、大学での活動全体を考慮する等、教育目標の「4つの力」修学達成度評価方法を改善し、教育成果を検証する。	おおむね良好	
1-1-1-2	学生（学部学生、大学院学生）、卒業・修了生、卒業・修了生を受け入れた事業所等からの意見を本学の教育に反映させるため、本学が提供する教育に対する満足度を調査する。得られた調査結果を参考にして、教育カリキュラム・方法・体制等を全学、学部、学科等で組織的に検討し、改善する。その他、JABEEやモデル・カリキュラム等、国内外の各種標準との比較等を通して、分野別での教育の質の保証について検証する。	おおむね良好	
<p>(学士課程・大学院課程カリキュラム)</p> <p>幅広い教養と専門領域の学究を通して、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成するため、学士課程カリキュラムを拡充する。 また、地域・国際社会に貢献できる研究者・高度専門職業人を育成するため、学際的・独創的・総合的視野に基づいた大学院課程カリキュラムを拡充する。</p>		おおむね良好	
1-1-2-1	「4つの力」を向上させようとする意識と学習スキルを養成するため、「4つの力」スタートアップセミナー等の初年次教育を拡充する。	良好	優れた点
1-1-2-2	人間・文化・社会・環境の理解を深めるとともに、地域の特色を生かしたカリキュラム、さらには実践外国語教育等の国際性を生かしたカリキュラム等、学士課程カリキュラムを拡充する。	良好	特色ある点
1-1-2-3	「4つの力」の養成等、大学、学部、学科等の教育目標の達成を目指して、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）を策定する。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいて、共通教育と専門教育を通して体系的な学士課程カリキュラムを編成・実施する。	おおむね良好	
1-1-2-4	広い視野をもち、地域・国際社会で活躍できる研究者・高度専門職業人を育成するため、高度な専門的知識や技術を養成するカリキュラム、専攻・研究科の枠を越えた学際的カリキュラム、地域性や国際性に配慮したカリキュラム等、大学院課程カリキュラムを拡充する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
計画番号	中期計画		
（教育指導方法） 教育全体の目標に基づいて学生の自己形成を支援するため、授業形態や指導方法を改善する。		おおむね良好	
1-1-3-1	「4つの力」を養成するために、プレゼンテーション型授業、グループ学習、PBL、三重大学Moodle等のeラーニング、そして学習時間の確保等、授業形態や指導方法の開発・改善を進める。さらに、FDを通して教員の理解を深め、教育方法の改善を促す。	おおむね良好	
1-1-3-2	教育の質保証に向け、TOEICなどの検定を活用した評価や学習ポートフォリオ等による形成的評価、GPAや卒業論文等による長期的・総括的な学習成果に対する評価等、成績評価方法を改善する。	おおむね良好	
1-1-3-3	教育者や社会人として望まれる資質を涵養するために、SA制度（学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせるチューデントアシスタント制度）を新設する。また、TA制度、RA制度、グループでの学習・研究活動を強化する。	おおむね良好	
（学生の受入れ） 地域・社会に貢献するという目的をもって真摯に学習する意欲や大学での学習の基礎となる学力をもつ学生を受け入れるため、入学者選抜方法を改善する。		おおむね良好	
1-1-4-1	カリキュラム・ポリシーに沿うものとなるようにアドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）を見直し、必要に応じて改善する。また、アドミッション・ポリシー及び教育・研究・社会貢献など、本学の活動全般に対する高校生や社会からの理解を深めるため、「大学案内」の改善等、入試広報を充実させる。	おおむね良好	
1-1-4-2	アドミッション・ポリシーに沿う形で入試が実施できるように、各種の入学者選抜方法（AO、推薦、前期日程、後期日程等）に対する追跡調査・評価を実施する。この評価結果を参考にして、募集人員配分・科目・配点等、入学者選抜方法の見直しを行う。	おおむね良好	
1-1-4-3	本学の教育・研究資源を高校教育に役立てるため、引き続き、出前授業、SSH、SPP、サマーセミナー等の高大連携事業に対して重点的に取り組む。	良好	特色ある点
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
（教育実施体制） 学部・研究科に加えて、大学全体の教育に責任をもって取り組む体制を強化するため、全学の教育開発・実施を担当するセンターの機能及び教育改善推進制度を拡充する。		おおむね良好	
1-2-1-1	全学の教育改善活動を充実させるため、高等教育創造開発センターの機能を強化して、教育内容・方法等の企画・開発を推進する。	おおむね良好	
1-2-1-2	幅広い教養教育を効果的に実施するため、共通教育センターの機能を強化し、共通教育の教育内容・方法、実施体制等を改善する。	おおむね良好	
1-2-1-3	教育全体の目標に沿った教育改善を推進するため、創意に溢れた重点化教育プロジェクト及び中期目標達成に向けた教育プロジェクトを支援する等、三重大学教育GPを拡充する。	おおむね良好	



中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 学生への支援に関する目標		良好	
（学生支援） 学生の修学、就職、生活、健康維持を総合的に行うため、学生支援体制を拡充する。		良好	
1-3-1-1	きめ細かい学生支援を行うため、保健管理センター、学生なんでも相談室、キャリア支援センター及び部局等の学生指導・支援担当教員の連携のもとに、修学支援、ハラスメント相談・メンタルヘルスケア等の健康維持支援、生活支援、インターンシップ・就職情報提供・就職相談等の就職支援を実施する。	良好	特色ある点
1-3-1-2	支援を受ける学生にとって親和性の高いピアサポート活動を活性化させるとともに、ピアサポーター自身の「4つの力」を養成するため、教育プログラムの充実等、教員・職員・学生連携によるピアサポーター制度を強化する。	良好	特色ある点
1-3-1-3	クラブ・サークル・学生委員会・ボランティア活動等の課外活動を活性化するため、情報の提供、施設・設備の拡充等の支援を強化する。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		おおむね良好	
（研究水準及び成果の目標） 研究全体の目標に基づき、研究者の自由な発想に基づく基礎研究を発展させ、それぞれの学術分野や学際領域における特色ある研究を推進する。また、特定の領域での世界水準の研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-1-1	独自性・地域性・発展性のある優れた個人研究、重点的課題にグループで取り組むプロジェクト研究、大学全体で重点的に取り組む「三重大学COEプロジェクト研究」等を推進する。	おおむね良好	
2-1-1-2	国際的諸課題の解決に向けて、特にアジアパシフィック・アフリカ地域等が抱える課題及び先端的な研究課題を対象とした国内外の大学や公的研究機関等との共同研究・連携を推進する。	おおむね良好	
（研究成果の教育への反映及び社会への還元） 研究成果を教育に反映し、また、広く社会に還元するため、研究成果の公表や産学官連携活動等を積極的に推進する。		良好	
2-1-2-1	研究成果の教育への反映や若手研究者の育成に向けて、地域イノベーション学研究科を始めとする大学院生や学部学生の積極的な学会等への参加、地域における実践研究、民間企業等との共同研究・受託研究への参画等を通じて、先端的な知識や技能の習得等を推進する。	おおむね良好	
2-1-2-2	研究成果を広く社会に還元するため、共同研究や受託研究等の推進、特許の出願・企業への技術移転、ベンチャー企業の育成等を推進する。	良好	特色ある点
2-1-2-3	市民や社会に向けた研究成果発表会、研究業績の紹介、ホームページ等を活用した研究成果の周知活動等を積極的に行う。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
（戦略的研究推進体制） 研究全体の目標に基づき、基礎研究及び応用開発研究を戦略的に推進する体制を確立する。		おおむね良好	
2-2-1-1	全学及び各部局の研究推進戦略室の機能を強化し、若手研究者の育成に向けた取組、研究者の交流、科研費等の競争的外部資金の獲得に向けた研修等を実施するとともに、重点的プロジェクト型研究の企画、効率的運営に向けた組織的な研究マネジメント体制を確立する。	おおむね良好	
2-2-1-2	生命科学研究支援センター等の共同利用研究施設の設備や支援スタッフ等の充実、共同利用機器の有効活用、リサーチセンター等の研究支援制度の充実等、研究環境を改善する。	おおむね良好	
2-2-1-3	社会連携研究センターによる自治体等との各種事業、企業等との共同研究や受託研究、特許の出願・企業への技術移転、学外拠点の活用と有効な連携等、産学官連携活動の支援・推進体制を強化する。	良好	特色ある点
（研究の水準及び質の維持・向上のための体制） 研究全体の目標に沿った研究の水準及び質を維持・向上させるため、研究マネジメント体制を確立する。		おおむね良好	
2-2-2-1	研究者としての倫理観を保持・養成するために、研究推進戦略室主導による研究倫理関連の研修会等を実施する。	おおむね良好	
2-2-2-2	大学全体の研究水準の向上のため、研究推進戦略室において、研究者の活動実績（著書・論文数、外部資金の獲得状況、学生や企業の満足度、その他の適切な指標）を多角的に把握・分析し、フィードバックする。	おおむね良好	
2-2-2-3	調査機関等による各種評価の分析結果等に基づき、本学及び関連部局の研究水準を検証し、全学及び各部局の研究水準の維持・向上のための取組を行う。	おおむね良好	
（Ⅲ） その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
（知の支援） 地域に根ざした知の支援活動を促進する。		おおむね良好	
3-1-1-1	公開講座や市民開放授業等、地域住民が参画できる教育活動を充実する。また、教員免許状更新講習等、社会人（同窓生を含む）のキャリアアップ教育に貢献する。	良好	特色ある点
3-1-1-2	大学が保有する学術資料のデジタルアーカイブ化を進め、公開・展示したり、それらに基づいたシンポジウム等を開催する。また、それらを保管・展示する施設整備を進める。	おおむね良好	
3-1-1-3	地域の図書館等、情報関連機関や博物館等と連携して情報サービス体制の整備を図るとともに、大学の施設を活用しながら知的情報を提供する。	おおむね良好	
3-1-1-4	地域圏防災・減災研究センターを中心に、三重県等と協働した地域防災活動を積極的に推進できる人材の育成など、地域防災事業を推進する。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
計画番号	中期計画		
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
（学内国際化） 国際交流イベントなどによって、国際感覚が自然に身につけやすい学内の国際化を進める。		おおむね良好	
3-2-1-1	インターネットを活用した遠隔授業等により海外大学等との国際交流活動を充実させる。	良好	特色ある点
3-2-1-2	国際交流週間、外国人研究者による講演、多文化社会関係のシンポジウムなど三重大学の学生、教職員の国際感覚の涵養につながるイベントを推進する。	おおむね良好	
（外国人受入れと学生、教職員の派遣） 留学生、外国人研究者の受入れ体制及び学生、教職員の海外派遣制度を整備し、充実を図る。		おおむね良好	
3-2-2-1	文書、ウェブの英語併記化や共用情報端末の多言語化など外国人留学生・研究者受入れの環境・支援体制の整備を進め、受入れ数を増大させる。	おおむね良好	
3-2-2-2	学生の国際性の涵養を図るため、ダブル・ディグリープログラム、3大学ジョイントセミナー、海外インターンシッププログラムなどの学生の派遣・受入れプログラムを充実させる。また、名古屋大学と愛知教育大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。	良好	特色ある点
3-2-2-3	三重大学独自の教職員の海外派遣制度を整備し、教職員全体の国際性の涵養を図る。	おおむね良好	
（地域国際化支援） 地域の国際化・国際交流の発展を支援する。		おおむね良好	
3-2-3-1	それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて、多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。	おおむね良好	
3-2-3-2	地域の国際化・国際交流に資する留学生等による多文化交流プログラムを推進する。	おおむね良好	
③ 学術情報基盤に関する目標		おおむね良好	
（学術情報基盤） 電子情報受発信の拠点機能を有する学術情報基盤と情報セキュリティ基盤を強化する。		おおむね良好	
3-3-1-1	学生及び教職員の教育研究活動等を効率的に推進するため、ユーザビリティと情報セキュリティの強化を両立する高度で堅牢なネットワーク環境を整備する。また、学生の教育・学習支援のための情報機器を充実させる。	おおむね良好	
3-3-1-2	学生の教育・学習支援のために学生用図書を充実させる。また、学術機関リポジトリ、電子ジャーナルの充実や文献検索機能の高度化等を通じて図書館機能を強化する。	おおむね良好	